



平成 18 年 12 月 5 日

各 位

会 社 名 コスモ・バイオ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 原田 正憲
(コード番号：3386)
問 合 せ 先 常務取締役総務部長 柴沼 篤夫
(TEL. 03-5632-9600)

株式会社プライマリーセルの株式取得（子会社化）に関する 基本合意書締結のお知らせ

当社は、平成 18 年 12 月 5 日開催の取締役会において、株式会社プライマリーセルの株式を取得し、子会社化することについて基本合意書を締結する決議を致しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 株式取得の理由

株式会社プライマリーセル（以下、同社）は、脂肪細胞等の初代培養細胞（プライマリーセル）（後出・注 1）の製造・販売及び同社細胞を用いた受託解析を行なうバイオベンチャー企業です。同社は、初代培養細胞に関してすでに知的財産権を含めた独自技術を持ち、医薬品開発や機能性食品評価及び新素材開発に寄与することを目的としております。

同社株式は現在、株式会社セルガレージ（本社：東京都台東区）が 100%を保有しておりますが、株式会社セルガレージがアンチエイジング（抗加齢医学）事業への経営資源集中を進める中、当社が同社の経営権を獲得することで相互の事業拡大とシナジー効果を発揮することができるとの考えで一致し、今般同社株 4,000 株（同社発行済み株式数の 80%）及び同社の経営権を、株式会社セルガレージより取得することで基本合意に達しました。

当社は、昨年 9 月 27 日にジャスダック証券取引所に上場、公募増資等による資金調達を行いました際、今後の事業拡大のための M&A や事業提携等に充当することを想定しておりましたが、本件はその一環として将来の事業拡大の布石として実施するものであります。

当社は、本件により以下のことを期待しております。

①同社では内臓脂肪細胞（注 2）をはじめ、褐色脂肪細胞（注 3）・白色脂肪細胞・肝細胞・破骨細胞（注 4）・心筋細胞等の質の高い初代培養細胞（プライマリーセル）を商品化する技術を確立し、既に国内のみならず、国外特に米国を中心にして、高い評価を得、製品の販売実績もあります。

当社はこれらの商品、受託解析サービスを販売することで、同社に不足しているプロモーション活動およびセールス活動を本格化させることにより、当社および同社とのシナジー効果による双方の収益向上が期待できます。

- ②当社はバイオ研究の商品の仕入・販売を主としておりますが、長年培われたユーザー・ニーズを基に同社の研究開発を推進し、さらに先端的・革新的な技術・商品開発を目指します。これにより当社は、細胞分野において、商品開発から販売までを一貫して行うことができます。
- ③メタボリック・シンドローム（注5）等への関心が高まる中、同社の細胞関連技術が様々な研究分野に貢献し、医薬品企業のみならず、食品関係企業の商品開発においても寄与することが期待されます。これにより当社は、食品分野に関係する顧客へ、より広く深く関わることとなり、新たなビジネスの展開を期待しております。

2. 同社の概要

①商号	株式会社プライマリーセル
②所在地	北海道札幌市北区あいの里4条2丁目13-1
③代表者	代表取締役社長 平敏夫 代表取締役 林圭介（株式会社セルガレージ取締役社長）
④設立年月日	平成16年（2004年）10月15日
⑤主な事業の内容	初代培養細胞（プライマリーセル）の製造・販売 医薬品開発及び機能性食品開発・評価受託
⑥決算期	6月
⑦従業員数	13名
⑧主な事業所	北海道札幌市、石狩市等に事務所、ラボ3箇所
⑨資本金の額	50百万円
⑩発行済み株式数	5,000株
⑪大株主の状況	取得前：セルガレージ社（100%） 取得後：当社（80%）、セルガレージ社（20%）

⑫最近事業年度における業績の動向

	平成18年7-9月期	平成18年6月期	平成17年6月期
売上高	20百万円	48百万円	27百万円
売上総利益	12百万円	43百万円	27百万円
営業利益（△は損失）	△14百万円	△25百万円	△4百万円
経常利益（△は損失）	△14百万円	△25百万円	△2百万円
当期純利益（△は損失）	△14百万円	△25百万円	△2百万円
総資産	14百万円	18百万円	10百万円
純資産	7百万円	△18百万円	7百万円
1株当たり配当金	—	—	—

同社が細胞関連事業を開始したのは平成16年10月からであります。

平成18年7-9月期につきましては、未監査であります。

3. 株式取得先、取得株式数、取得株式価額及び所有株式数の内容

異動前の所有株式数	0株
取得株式数	4,000株（取得価額 368百万円）
異動後の所有株式数	4,000株（所有割合 80%）

4. 日程

平成18年12月5日 取締役会決議、基本合意書の締結
平成18年12月19日（予定） 株式譲渡契約の締結
平成18年12月25日（予定） 株券引渡し期日

5. 株式の取得先

①商号	株式会社セルガレージ
②代表者	代表取締役兼 CEO 中村武史
③本店所在地	東京都台東区上野一丁目11番9号 イマスサニービル
④主な事業内容	アンチエイジング（抗加齢医学）に基づく商品・サービス開発
⑤当社との関係	人的、資本的、取引関係その他特筆すべき利害関係はありません。

6. 業績に与える影響

同社は当社の連結子会社となる予定であり現在精査中ではありますが、本件による当事業年度における影響は軽微と考えております。今後につきましては、当社の業績に与える影響が明らかになりましたら、公表する予定です。

以上

【語句説明】

(注1) 初代培養細胞 (プライマリーセル)

生体から分離した細胞を培養し、第1回目の継代を行なうまでの細胞。細胞は継代を繰り返すことでその性質が変化することがあります。そのため、初代培養細胞 (プライマリーセル) を用いることで、より実際の細胞に近い状態で実験することができます。

(注2) 内臓脂肪細胞

脂肪粒に富む動物の細胞を一般的に脂肪細胞と呼びますが、中でも内臓周辺に存在して脂肪を貯蔵する細胞を内臓脂肪細胞と呼びます。内臓脂肪の過剰蓄積が、メタボリック・シンドローム発症の原点となっています。

(注3) 褐色脂肪細胞

代謝活性、特に脂肪分解と脂肪酸酸化の能力が大きな細胞で、哺乳類の頸部や肩甲部にある特殊な褐色の脂肪組織です。余剰脂肪を直接熱エネルギーに変換し体温調節するための産熱器官と見られています。

(注4) 破骨細胞

骨組織は骨を作る細胞 (骨芽細胞) と骨を壊す細胞 (破骨細胞) の活性のバランスにより恒常性を保っています。破骨細胞は骨組織の吸収機能を持つ大型の細胞です。骨組織は生体のカルシウム等の無機イオンを貯蔵していますが、必要なたびに破骨細胞がこれらのイオンを骨組織から血液に供給しています。

(注5) メタボリック・シンドローム

生活習慣病の三大要素 (高血圧・糖代謝異常・脂質代謝異常) と内臓脂肪蓄積型肥満等が複合した複合生活習慣病として、近年 WHO (世界保健機関) や厚生労働省等をはじめ一般社会においても注目が高まっています。

日本動脈硬化学会、日本肥満学会、日本糖尿病学会など学会においても関心が高く、今後研究の広がりや深まりが期待されます。

以上